

防災一口メモ ①

シリーズ『防災一口メモ』を始めるにあたって

日頃、忘れられがちな、防災対策や箱根町が潜在的にもつ自然災害について、このコーナーで詳しくしていきます。

まずは、第1回目として風水害をテーマにお話しましょう。

風水害による被害

箱根は神奈川県の中でも雨の多い町です。大雨によって、早川水系や須雲川水系の河川沿いの低地では、浸水の危険のある箇所があります。

平成4年に神奈川県が発行した「新アポイドマップ(自然災害回避地図)」には、1時間に85ミリ以上の雨(30年に1度程度の確率)になると浸水する箇所が記載されており、箱根町では3箇所がそれに該当しています。

しかし、梅雨のような長雨のあとでは、これより少ない雨量でも浸水が起こることもあります。

このほか、雨による災害としては、洪水のほかに、地すべり、山崩れ、土石流があります。箱根は、山岳地形で傾斜が急であることから、大雨などで地面が緩み山崩れや地すべりが起こり、すべった土砂が土石流や泥流となって流れ出し、河川や沢沿いに流れ下って

大きな被害を及ぼすこともあります。平成14年10月1日の台風21号による芦之湯の災害が記憶に新しいところ です。

町における最大の風水害被害は、昭和28年7月に発生した早雲山の地すべりです。梅雨末期の7月18日～23日に431.7ミリの降雨があり、翌日の24・25日は晴天でしたが、小規模な地すべりが発生し、強羅付近で雷鳴のような響きが聞かれました。翌26日10時20分頃には、大音響とともに早雲地獄で崩壊がおこり、土石流が須沢を流れ下り大きな被害をもたらしました。ここまでの大規模な土石流が発生する原因としては、雨だけでなく温泉などによる地質の変化や水蒸気などの噴気による岩盤の緩みなどの複合的な要因が考えられます。(下の写真)



「箱根火山防災マップ」を、町行政ホームページにも掲載しましたのでご覧ください。

http://www.town.hakone.kanagawa.jp/hakone_j/kurashi/iza/kazanmapindex.htm

とっておきの1枚 拝見!



強羅 湯川精之助さんより
(左端が湯川さん)

昭和39年に行われた東京オリンピックの際、小涌園前を聖火リレーが通過しました。そのときに、走者であった当町の中学生など、関係者と記念撮影をした1枚です。この写真は、オリンピックが始まる前に感じたわくわくした気持ち、今でも鮮明に思い出させてくれる、私の宝物です。

皆さんの思い出や記念の写真を募集しています。詳しいことは企画課にお問い合わせください。

わが家のちびっ子



たかあき
勝又 稜陽 くん(1歳5か月)

啓之・葵さんの長男(強羅)

♥お父さん、お母さんからひとこと

「元気に健やかに育てね。」

そして、イッパイ遊ぼうね。」

町の人口と世帯

| | |
|------------|-----------------|
| 人口 | 14,873 (1) |
| - 6月1日現在 - | 男 6,989 女 7,884 |
| ()内は前月比 | 世帯 7,252 (18) |



R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。

ごみ減量標語 あなたです ゴミにするのも 活かすのも